

「作文を読んでいると熱い気持ちにさせられる」。近畿ブロック技術委員会の齊藤正明さんが、2000年2月に和歌山と奈良で実施された「JTU第3種公認審判試験」の作文問題の全解答を入力してくれました。公開にあたり、受験者の名前は伏せ、大会名称など一部を調整してあります。

### 作文1

#### 審判員のあるべき姿・心得

審判員がそこにいるだけで、周りの選手たちの義務や責任感を向上させる働きがあるように思います。私も交通指導などで道路に立っているだけで、通行中の車や歩行者などが周りに注意してくれたり、安全を十分確認しているのをよく見ます。私のように不慣れな者でも一般の方からはそんな風に言われます。でもこれは選手一人一人の自己責任だと思います。私達審判員は選手を失格にするためにいるのではなく、大会の速やかな遂行と選手が満足して頂ける環境作りのために努力していかなければならないと思います。

審判員と選手はコミュニケーションをとりながら、よりよい大会の運営と開催地の皆様と共に進んでいかなければなりません。

### 作文2

私にとってトライアスロンは、一生続けていきたい唯一のスポーツです。だから毎日の生活にもメリハリがつけられていると思っています。そのトライアスロンと長期間付き合っていくためにルールを知り、競技者としてであったり、スタッフとしてであったりの気持ちを知りたいと思います。競技者としては、スタッフ等の方の応援やコースの誘導がわかりやすく、気持ちよくやってくれたら気持ちのいいものだし、審判員としたら大会が事故なく、競技者が「この大会はいいね！又来年も来たいな！」と思える大会になるように努力すべきだと思います。その為に大会終了後にアンケート調査等をよく目にしますが、あれはいい方法だと思います。競技者、同伴者、審判員問わず意見を求め、これを又、各立場の人の考え方を元に来年の大会は「こうすべきだ」という事を決めていけたら最高だと思います。

最後にやはり理解度や認知度の問題だと思うのですが、もっと多くの大会がこれから先増えていって欲しいと思います。この2000年のシドニーオリンピックでのトライアスロンが一般的にどうとられるか楽しみです。

### 作文3

審判員はトライアスロンという競技の中では、非常に重要なポジションにいると思う。危険な行為を行う選手を停止させたり、失格にしたりする事が出来る立場にあるからだ。それだけでなく、レース中にコース内の危険を判断し競技者に注意を促し、未然に事故を防ぐ事も要求される。そのあるべき姿は、常に周囲を観察しあらゆる場面において冷静な判断を行うことだろう。自分はいまだ審判員としての経験等はないので、あまり色々とは言えないが選手としての経験は少しばかりあるので、その少ない経験を生かし審判員として仕事をするとき状況判断の材料としたいと思う。審判員になった時には競技が適正に行われるように心掛け、観客や選手から見てもトライアスロンは安全で楽しめるスポーツであるという風に思ってもらえる様に働こうと思う。2000年を迎えるにあたり、これからますますトライアスロンというスポーツはメジャー化していくと思われるので、もっと多くの人達が参加してくるようになるだろう。その中で審判員の役割というものは本当に大切なものだから、いい加減な気持ちで業務を行うことがないように注意したい。自分もまだまだ選手としても経験が少ないので、審判員という仕事を通してもっとトライアスロンという競技を知りたいと思うし、そういう心掛けを持って審判員という業務を行いたいと思います。

### 作文4

## 1. はじめに ~身近なトライアスロン~

ここ数年、トライアスロンの人気の高まりには非常なものがある。今年のシドニーオリンピックでは、正式種目となった。一昔前の鉄人レースといった過酷なイメージから、より一般的になってきたと言える。

## 2. 審判員のあり方 ~競技と競技者を守るためにある~

### (1) 審判員は、競技における警察官である。~積極的な指導警告~

審判員が業務を遂行するにあたっては、指導・注意が選手自らのためであることを考え、き然とした態度でのぞまなければならない。

### (2) 審判員の實力強化 ~ルール熟知と正確な判断力~

競技の審判に関する事案は、常に突発的に起こることが予想され、審判員は極めて短い時間で判断、処置しなくてはならない。審判員は各ルールを熟知することはもちろん、平素からイメージトレーニング等を重ね、あらゆる事案に対応できる「實力」を身に付けなければならない。

### (3) 誤解を招く動作の厳禁と報告連絡の徹底 ~トラブルの絶無~

審判員の不用意な動作からの抗議が散見される。審判員が選手レベルに熱くなり、選手に対する応援したい気持ちが原因であると思われるが、審判員は常に冷静でなければならない。抗議等に対して審判員自身が判断できない時は、自らが回答せず大会本部等に報告し、指示を受けなければならない。

## 3. おわりに ~選手、地域の立場で思いやりを忘れない~

「再びこのトライアスロン大会に出場したい」そんな声の聞こえる大会になるならないは、我々審判員が「カギ」を握っていると言っても過言ではない。我々審判員は、選手とそれを支える地域ボランティアの協力が不可欠であることを忘れてはならない。

## 作文5

私の今まで頭の中に描いてきた審判員のイメージは、「競技者のルール違反を指摘して処罰を与える人」でした。しかし、トライアスロンの大会に参加したり、今回の試験の勉強をしていく中で大きく変わってきました。審判員は競技者のルール違反を裁くのではなく、ルール違反を起こしそうな競技者に安全に無事ゴールできるよう水先案内人となるべきだということを学びました。

例えば、去年初めて美山トライアスロンに競技者として出場しました。スイムスタート地点で、不安でどうしていいかわからずオロオロしていると、審判員の方がその様子を察知してくれ、「自信のない人は後ろの方からゆっくりスタートすればいいですよ」と穏やかに声をかけてくれました。そのおかげでスタート時のバトルに巻き込まれることなく、安全に泳ぎ始めることが出来ました。またスイム途中では、私は左の方へそれて泳いでいたのを気付かずにいると、ボートに乗った審判員が、「少しそれていきそうですよ」とゆっくり教えてくれました。その時、もし「コースがはずれています。違反です。」ときつく言われていたら、私は気が動転してあせって溺れそうになっていたかもしれません。このように同じ内容のことを注意するのにも、競技に集中している選手に対して言う時には、その表現や言葉使いによって危険な状況に落ちいってしまうかもしれません。審判員は常に競技者の立場に立って温かみのある言葉使い、対応をするべきです。大会での確かな行動をとるには、事前に言葉使いや競技用語について十分学習しておかなければなりません。大会は競技者の自覚、自己管理は言うまでもなく、審判員との信頼関係、相互協力が良いレースをつくっていくのです。私は女性審判員として、女性の立場から大会の運営に協力し、大会を温かみのある明るい雰囲気のものとするために、勉強し努力していきたいと思っています。

## 作文6

トライアスロンは、三種類の競技を広範なオープンスペースで行う点に大きな特徴を有しています。関連複合競技においても、三種が二種になったり、競技が入れ替わるだけで広範なオープンスペースで複数の競技が行われる

点は同じです。

この特徴からすると「今日的な問題」は、この競技の安全性と言うことが非常に大きな位置を占めます。

オープンウォータースイムであれば、溺れることや海洋における人間に害をなす生物（クラゲ等）からの危険など、バイクでは、時速30数キロから40キロの高速走行を行うため、転倒等の自損はもとより他の一般車両や観客との接触事故の危険、また本来ラン競技は冬場がオンシーズンであることからわかるように、夏場におけるそれは熱射病等の危険をはらんでいます。これらの危険性を出来る限り回避するため、競技者自身の自己管理ときちっとした大会運営が要求されます。またこうした中で審判員は、安全公正を心掛けた言動をとるべきであります。

今後我々が審判員若しくはボランティアスタッフとして、また観客として、そして競技者としてトライアスロン等の競技に関わっていくためには、その大会を成功させ、より良いものにしようという気持ちを常に持ち続け努力し続けることが必要と考えます。

#### 作文7

私はトライアスロンという競技を、5年ほど前に初めて知りました。今でもそんなに誰もが出来るスポーツのようには、世間の人達も思っていないと思います。すごく苛酷なしんどいだけのスポーツに見えることでしょう。私は苦しくてもやり終えた時の感激は、すごく大きいスポーツだと思います。もっと他の人達にも理解してもらえたらうれしいです。そしてトライアスロンを始める子供達が増え続けてくれば、将来メジャーなスポーツになっていくのではないかと思います。

#### 作文8

##### バイク事故の危険性

トライアスロンを始めて4年目に入りますが、3件のバイク事故を目撃しました。（私自身の事故ではありません）一つは一昨年の大会での出来事です。一方通行で完全遮蔽のバイクコースのはずですが、3周目の後半、杖をついたおばあさんがよろよろと道路を横断し始めました。私の前の二人と私は大声を出して何とか通り抜けましたが、私のすぐ後ろで「ガシャン」と大きな音、一瞬レースを中断したほうが良いのではないかと考えましたが、すぐ近くにいた大会スタッフに「事故だ」と声を掛けレースを続けましたが、おばあさんは亡くなったのではと考え、後レースに集中できませんでした。おばあさんはもちろん、ぶつかった競技者も大会では保険に入っているとはいえ、精神的な負担は大変だと思います。最低でも月に一回見舞いに来るにしても、その労力は大変なことです。1年後位にTJ誌でおばあさんは入院中、競技者は軽傷との記事が小さく載っていましたが、本年度よりの小豆島トライアスロンの中止に何か少しでも関係があるのではと自分では考えています。あと2件の事故は練習中の事故で、一つは保険に入っていたこと、もう一つは仲裁役の人がうまくやってくれて、二人ともトライアスロンを無事続けています。バイク事故は練習、レースに関わらず起こるものと思います。その時保険に入っていること、加盟団体のメンバーがしっかりフォローすることが重要だと思います。結果次第ではトライアスロンを断念することにもなりかねないからです。

最後に前記の大会や他の大会が中止になり、今後のレース開催地が心配ですが、マーシャルとして選手として、トライアスロンをしている人は良い人だといわれる社会生活を送って地道な活動を続けていきたいと思っています。

#### 作文9

<今日的な問題>について少々。

私が思っていることは、日本の国土（地形、交通事情等）では、トライアスロンを運営するのは少し無理であると考え。運営する場合、大会関係者は非常に気をつかうし、審判員は特に選手以上に鍛錬を積むべきであると考え。

このような制約があることから、当然開催地も限られ、選手にとっては遠征費、参加費等多額の出費となる。オリンピック種目となり、スポーツとしての認知は高まると思われるが、趣味としてはお金がかかりすぎ、まだまだ一般的には受け入れられないであろう。私も子供の教育等にお金がかかる年代となり、少し尻すぼみになっている今日この頃である。若い人の中にも逸材は沢山いるだろう。しかし経済力の無い若い人には特に受け入れ難いスポーツでもある。今後レベルアップしていく上においても助成（金銭面、機器貸与等）システムの充実を図っていかれてはと思う。

#### 作文10

<今日的な問題として>

大会運営するに伴い、地域の協力が得られない。数十年大会運営してきたが、マンネリ化して新鮮さが無くなる。ボランティア意識が弱まり、スタッフが集まらないなど、近年有名大会の休止、中止の発表が相次いでいる。それには競技者のモラルも大いに関係していると思われる。競技させてもらっているという意識がなければならぬと思われる。

<審判員のあるべき姿・心得について>

選手に対して、公平、正確さを求められる事は当然ではあるが、ちょっとした気付きを忘れず事故を未然に防ぐ事が出来る。特にドラフティングでは、勇気と自信を持って自己判断することが大事であると思う。

<トライアスロンの理想として>

現在トライアスロンもオリンピック種目となり、商業的にも認められる様になったと思われるが、私の理想とするトライアスロンは、決められた時間内でどれだけ楽しむ事が出来るか、もちろんタイムが短いほうが良いが。その中で自分をどれだけアピールできるかどうか大切だと思う。またアドベンチャー的要素を取り入れたトライアスロンもこれから増えてくると思われる。（多種多様になってくる。）

#### 作文11

「審判員のあるべき姿・心得」

まず第1に、服装だと思います。最近JTUのポロシャツやウインドブレイカーの上下やキャップやマーシャルベスト等が普及してきたので、大変良い事だと思いますが、大会によっては誰がマーシャルなのかボランティアなのか分からない状態があるので、まず身分を示すと言う意味で、その大会で審判長が服装の指示及び公認審判員証を首から掛けるよう指示の必要があると思います。ただ陸連みたいに立っている姿勢や歩く動作までは必要ないと思う。

第2に言葉使いについてですが、競技者が競技に夢中になっていて、乱暴な言葉を審判員に言う場合がたまに見受けられますが、その時に同じ様な言葉使いをしてけんかするのではないと思います。その競技者に対しても競技に夢中だから乱暴な言葉使いが許されない事ですが、審判員として感情的にならず、いつでも冷静に判断でき、誰に対しても十分な説明が出来るような努力が必要だと思います。

最後になりましたが、服装や言葉使いに気を使うことによって、審判員として自覚も出ると思うし、ルールブックの中にも書いてあったように、レースにおける水先案内人としても十分やっていく事が出来ると思います。

また審判員、大会運営者、競技者の努力によってよりよい大会が開催できる事を願っています。

#### 作文12

審判員はむやみやたらと「警告」「失格」を与えるためのものではなく、未然に違反行為を防ぐ水先案内人の立場でなければいけない。また、トップ選手から一般の選手までが、「来年も参加したい」を思えるよう、大会を安全に公平にスムーズに進めて行くための最大限の努力をしなければならない。また時には、スタート前の緊張をほぐす

ために「大丈夫ですよ。」とか、バイクやランの途中で、「もうすぐエイドステーションですよ。」などといったやさしい声をかけてやることも必要である。また、注意を促す場合にも、一方的な命令口調ではなく、「危ないから左によってください。」など、英語で言う「please」にあたるお願いする口調が好ましいであろう。

昨年、自分自身が参加させてもらった「奈良県選手権」においては、大会前に審判員の方々やボランティアの方の紹介がされた。大きな大会では大人数で時間的に無理であるが、こういった小人数の大会では、大会を盛り上げるためにも、審判員の方の紹介は非常に有効であると感じ、また好感を持つことができ、緊張感もいくらかほぐれたものである。したがって競技終了後、帰路につく時には気持ちよくあいさつをすることができた。このように、審判員と選手は一方的な関係ではなく、お互いが主役であり、お互いがスポーツマンシップにのっとなって、公平で公正な判断をして競技を運営し、最後まで気持ちよく安全に終了できるよう、努力することが必要だと思う。また、自分がどちらの立場に立ったと時でも、常に大会がスムーズに行えるよう貢献していきたいと思う。

### 作文13

#### 「審判員のあるべき姿・心得」

審判員は、どの競技者にも公平な目で見なければならぬと思う。がしかし、オリンピック選手と一般の選手、それも後方を走る選手とでは審判員の選手に対するルールの対応が違って良いと思う。全選手が公平に安全で楽しく競技することがトライアスロンの理想であるからだ。

### 作文14

一昨年のある大会に仲間と出場した時の事です。スイムコースのブイが見えにくく、多くの選手が最短距離を泳げず、普段のタイムより大きく遅れることがありました。どこに向かって泳げばいいかわからず、私の仲間の一人は大きくコースを外れてしまったそうです。その時、大会関係者は、「コラ、どこ泳いでんねや。」と怒ったように注意したそうです。誰も好きでコースアウトして余分に泳ぐものはいません。結局彼は、普段の2倍近いタイムでスイムを終えたそうですが、何故もっと早く彼にスイムコースの誤りを告げる事が出来なかったのでしょうか。又、余分に泳いで疲れている彼に、もっと親切に対応出来なかったのでしょうか。

その大会も何度も行われている大会なのに、決して安くはない大会参加費を払っている以上、もっとしっかりとした運営をしてもらいたいと思いました。

トライアスロンの大会は、いろんな地形等の条件で開催されるため、難題があるでしょうが、大会の運営技術があつてこそ、参加者のパフォーマンスも上がるだろうし、審判員の実力が発揮できるものと思います。

前述の大会関係者は、審判員ではなかったかもしれませんが、審判員も競技者の気持ちをくんだ上での公正なルールにのっとなった言動が、今後のトライアスロン普及に重要なものとなっていくことと思います。

### 作文15

#### 「私とトライアスロン」

私がトライアスロンという競技を目にしたのは、約15年程前の「びわ湖大会」でのアイアンマンレースのニュースだったと思う。当時は、こんな過酷なレースをよくやるものだなと感じていました。しかし、その数年後私自身の職場が変更になったことと、周りに自転車に乗っていた友人がいたことから、自転車通勤をすることとなった。それまでも、水泳とランニングは続けていたので、「トライアスロン」に挑戦してみようという気になり始めました。

周りの友人からは、「そんなに自分の体をいじめて何が楽しい」とよく言われました。私自身、ひざを故障して全く体を動かすことが出来ない時期がありました。その経験があるから、健康な人間は体を動かす。体を動かしたくても動かさない人というのは沢山いる。そのためにもいろんなことをやる。レースではリタイアしない。これをモ

ットーに競技を続けています。私にとってトライアスロンはレースであってレースではない。あくまで自分自身への挑戦であるから。

大会中にボランティアやスタッフ、民宿の人や他の参加者との出会いというのも、トライアスロンをやめられない一つの要因です。今では年に1回ではあるが、先輩と二人で必ず参加する大会がある。完走してあれこれと話をして最後には、「また来年な」この言葉で別れている。

トライアスロンは、私にとって生活の一部になりつつあるものです。

最後にトライアスロンの今後の発展に思うことは、審判員やジュニアの育成はもちろんですが、「いかに楽しく競技ができるか」だと思います。審判員になれなくてもなれても、トライアスロンの良さ楽しさを少しでも周りの人に伝えることが出来るよう、努力していきたいと思います。

#### 作文16

トライアスロンを始めて今シーズンで8度目を向かえるわけですが、今回この審判試験を受験するのに、ルールブックに初めて目を通して知ったことがいくつもありました。例えば水温の測られるのが、コース中央の水深60cmとか、DHバーの長さが決まっていたり、バイクの長さ2m、幅60cmと細部にわたり決められていることなど、他にも知らないことがありました。多分我チーム員も、キャリアはあるけどそんな知識は持っていないのではないかと心配になってきました。我チーム員だけでなく、全国のトライアスリートにも言えることではないでしょうか？オリンピックや国体にも認められて、大きくなるのはいいのですが、他の競技に比べ、選手も審判員も主催者もまだまだ甘いのでは？日本のトライアスリート全員が、このルールブックを持つことは不可能なのでしょうか？エントリー料金に含ませて配るとか...

ドーピングやドラフティングで、点数を引くことばかりに目を向けず、「トライアスロン」というスポーツの本来あるべき姿であるプラスの要因が増えるように、一審判員として、一競技者として努力していきたいと思います。まずはうちのチーム員に話します。滋賀県のトラ協のH.Pにも...

#### 作文17

トライアスロンの今日的な問題は、知名度はともかくとして、「参加しようとする人がまだ少ないのではないか？」というところにあります。トライアスロンは名前の方は、10人に聞けば、多分9人は知っているでしょう。そして、自分の周りでは、9人が9人とも「トライアスロン=鉄人レース=サバイバルチック=危ない、しんどい」というイメージが相当あるようです。鉄人レースとしんどいは、スポーツなんて、本気でやればなんでもしんどいものですから、これは間違っていないと思うのですが、「危ない」というイメージがあるのは問題だと思います。みんな、テレビのニュースとかでやっている世界的なレースなどの自転車、高速で何台もいっしょに走っている(ルール上では問題なくても見ているほうからしたら、混雑しているように見えやすい)から、みんながみんな、「さすが鉄人レース!!命張ってんなあ。」とってしまうわけで、そこから「こんなん俺やったら、すぐこけてしまうで。」とかネガティブな方にいってしまうのではないのでしょうか。これを解決するにはもう思いきって、事故者、ケガ人を0人にして、ニュースとかで、「どうしてこんなにいるのに、トライアスロンではケガ人が全然出ないのでしょうか。不思議ですねえ。」とか言われるようになって、運動できて根性がついて、その上安全なスポーツを子供にやらせたがる、世の教育熱心な母親達がドッと飛びついてきて、次にそのパパやママも、「子供が頑張っているんだから...」とし始めて、そのうち、「トライアスロンをやってなかったら、ヤバイでえ」くらいまで広がるかもしれません。

上に書いた内容は、決して夢物語ではありません。ブレイクする素質は持っているのに、いまいちブレイクしきれない原因の1つ、ルール違反による事故を、競技者と審判員が相互に努力し合い、トライアスロンからしめだそうではありませんか。

## 作文18

トライアスロンは、シドニーからオリンピックに加わることもあり、これからますます盛んになると思われるが、それだけに考えていかなければいけない問題も数多くある。その一つに練習や大会開催の施設の問題が考えられる。今現在行われている大会の多くは、村おこしや島おこしの一つとして開催されているもので、参加するためには、日数も費用も多くかかる。とても一般的とはいいがたく、大会の数においても、まだまだ希望者がみな参加できるまでには至っていない。もっと身近で安全に大会を開催できる施設の整備が望まれる。また私個人としては、中学校に勤務しているので、ジュニアへの普及に務めたいと考えているが、現在の施設ではとても難しい。水泳、自転車、マラソンの三種目のうち、水泳、マラソンについては、現在水泳部や陸上部もあり、独立した練習は可能であるが、自転車については無理だと思われる。公道を使うことも考えられるが、大人でも自転車の練習中に多くの事故が発生していることを考えると、大きな不安がある。大会についても、今、部活動として行われているスポーツの大会と同じレベルの大会を開催することは、施設の面で不可能だと思われる。さらに奈良県トライアスロン選手権大会が自衛隊の敷地内を使わせてもらっているが、休み中の1日に限ってやっと開催していることを思うと、トライアスロンの普及と施設の充実は切り離せない。まして、ジュニアに普及させていくためには、安全に、手軽に練習ができ、大会を開催できる施設が地域にあることは重要なことで、私達の側からはもちろんであるが、JTUの側からも積極的に働きかけて欲しい問題である。

## 作文19

一選手として思うことは、バイク練習はやはりどんなに交通量の少ないところにするにしても、一般道路であるし、そこへ行くまでも、どうしても大きな道を通さなければいけません。もちろん、こちらも道路交通法などを守らなければいけないのですが、普通の自転車とのスピードの違いは、一般に自動車に乗っている人には分からないと思います。そこでの認識の差が事故にもつながっていくと思います。バイクに乗っている人が最大の注意を払うのはもちろんのこと、自動車を運転している人にも、多少なりの知識はもってもらいたいと感じました。これからアスリートが増えてくると思うので、これは問題になると思いました。

先日、ボランティアをしていて感じたことですが、スタッフの方の言葉使いで、これは、選手の方に発した言葉ではないのですが、もう大会も終了する閉会式のとき、ボランティア側のちょっとしたミスではありましたが、それを目くじら立てて命令口調で、頭ごなしに怒鳴っていたのは、聞いていて気分の良いものではありませんでした。これは、この競技に限らない問題だと思いました。同じ注意をするにしても、これでは気分が悪くなってもう関わらまいと思っただけでした。

たくさんの人と関わっていく中で、気持ちよく進めるためには、相手を互いに思いやって行動したり、言葉をかけるということを学んだ日でした。

## 作文20

苦しければ苦しい程、真剣であれば真剣である程、終わった後の喜び、感動は大きい。そんなスポーツの一つがトライアスロンであると思います。その反面、危険が常に付きまとってきます。それをいかに安全に、公平に、気持ちよく競技してもらえるか。審判員は大きな役割をもっていると思います。昨年の夏に初めて大会に参加しました。受付から大会終了まで、競技者、ボランティア、審判員、挨拶に始まり挨拶に終わる。みんなのマナーの良さや笑顔に本当に気持ちの良い一日を過ごせました。軽い気持ちで参加した大会でしたが、より深くトライアスロンに関わっていきたいと思い、審判員という違った角度からも大会に参加したいと思い始めました。まだまだ新しいスポーツのトライアスロンを、競技者として、審判員として、またボランティアとして、広く世間にそのすばらしさ、可能性を伝えてゆきたい。そう思います。

## 作文2 1

### 「審判員のあるべき姿・心得」

トライアスロンを始めて15年、1988年びわ湖アイアンマンに出場した。スイムで出遅れたが、バイクはいい感じでペダルを踏めた。ランに入って、傷めていたひざに痛みがきた。ランはウォーキングに変わってゴールをした。スタッフに本部席へと連れて行かれ、「あなたはドラフティング違反で失格です。」と言われ唖然とした。その説明は集団走行、それも長く数回したとの事、マーシャルと自分の見解の相違とさほど反省はしなかった。1月に講習会を受け、意識は大きく変わりました。日常、車を運転していても、違反はもちろん弱者への思いやり。先日仕事で（私は室内装飾）に、タイル屋さんに伝言を書いた時のこと、タイル屋へと書いてしまい、それを読んだ職人さんは気分を害された事でしょう。後でそれが分かって反省した。

佐渡大会に出た時、バイクでパンクした。もちろん端に止め、タイヤを換えている時、応援して下さっていたおばさんが歩み寄って来て、「落ち着いて。」と言葉をかけられ、私のバイクに触れ手伝ってくれた。それが違反になる事は分かっているが、といってもおばさんはそばで見ているだけ、そこでマーシャルに目撃されたら、最悪、自分は失格になったかもしれない。15年の経験を生かし、臨機応変に大会に関係していきたい。

## 作文2 2

審判員と競技者の共通の目標は、競技者が全力を出し、競技会を成功させる事です。競技者は、公正なスポーツ精神とフェアプレイ精神で競技し、社会人としての常識で対処し、自己の安全に責任を持ち、他選手の安全を損なう事なく、練習した力量を出しきる事です。又、審判員は3種の競技のルールにのっとり、選手が競技を全力でする事が出来る様にアシストし、安全を最優先に、自己管理が出来なくなった選手を注意、警告等、適切に厳しくアシストして、競技全体が応援者も含め、成功させる事が最大の目標になります。

以前、グリーンピア三木の大会で、バイクコースに子供の飛び出しがあり、選手が避けようとして転倒し、リムが曲がり、非常に無念な表情でリタイヤされたのを見た事があります。会場設営の条件もありますが、選手がどう対処されたのかは分かりませんが、近くにいたスタッフ（審判員も含め）の方々の無念さも強力に伝わってくると同時に、運営の難しさも幾分かは分かりました。

奈良県選手権大会での、バイクコースでの清掃などは、競技者にとっても非常に有り難く、安全性に通ずる事で、今後も続けられる事がトライアスロン発展につながっていくと思います。

## 作文2 3

ここ数年のいくつかのレースに出場して感じるのは、地域住民との交流である。今年一つの大会が早々と中止を決定した。その理由が、「地域住民との摩擦等」となっているのは、現在のトライアスロン環境をよく表すものである。94年のロングディスタンスの大会に出場した時は、バイクエイドで立ち止まり、ボランティアの方々にこやかに会話を交わす競技者を大勢見たが、2年後の大会では殆ど見られなくなり、代わりにコース上にゼリー飲料の容器が散乱することとなった。大した事ではないように思えるが、エイドステーションでの会話は、楽しく気分を和ませるものである。コース上にいたずらに投棄することは、今後も厳しく禁止していくべきであろう。同時に、エイドステーションでの補給物の受取方について「立ち止って受け取る」のを推奨する条文が、ルールブックにあっても良いのでは。勿論、周辺の安全確認が前提となるが、こうしたボランティアの方々とちょっとした会話が、住民と競技者との間にいい関係を作り、大会の継続と発展につながるものであろう。

ちなみに、私自身は、エイドステーションがあると、努めて立ち止り、「ありがとう」の一言でも交わすことにしている。もっともこれには、走りながら受け取るのがあまり上手ではない私の技術レベルも理由としてあるのだが。

## 作文2 5



近年、トライアスロンがオリンピック正式種目になり、トライアスロンの競技人口が増えている。しかしそれに伴い、初心者の事故が多発している。去年行われた大会では、バイクでのたくさんの落車事故により、競技が途中で中止になった。この事故の要因として、初心者のテクニック不足とバイク集団が大きくなりすぎた点が挙げられる。この事故を防ぐためには、レース前でのしっかりとした危険な場所の説明と、ウェーブスタートによる選手をばらつかせる事と、コースに危険なところを避けるべきである。トライアスロンの競技人口が増えている今、初心者を安心してレースに参加できる大会にするよう審判員は常に安全を考えなければならない。

#### 作文26

私は、1987年よりトライアスロン大会に出場し、今年で15年目になります。競技を始めた時は、マイナーなスポーツでした。しかし、今日より各大会が、地元の方々とともに調和をもって行われたと感じています。いつの間にか競争志向になり、選手のマナーも下がってきているのではないのでしょうか。2000年のオリンピックで正式種目になったこの時点で、トライアスロンの発展のために、私も審判員の一人となり、協力したいと考えています。

よくTVの駅伝の中継点で、次の選手がいなかったり、審判員が走ってきた選手をむりやり退かせるため、後続の選手の邪魔になったりする場面を見ます。数年前より、あるロングディスタンスの大会にも審判員が多数参加されるようになってきています。その中に「本当にトライアスロンを知っているのか？」と思う審判員がいます。バイクの選手のすぐ前に2輪車を入れたり、急な上り坂でもドラフティングゾーンを確保させようとしたり。もう少し選手の気持ちを考えれば良いと思います。先程の駅伝の場面もありますが、審判員は選手が力を出しきって、公正、安全に完走できることの先導的役割を果たす心得が一番大切だと考えます。

またトライアスロンが今後、益々発展するためには、エリート選手だけが大切にされる大会運営方法を見直す必要があると思います。参加人数が絞られる中、エリート選手は優先的に出場できます。しかし地元の方との「ふれあい」また「地元へ経済効果」を与えるのは、「おじさん」「おばさん」選手だと思います。トライアスロン人口のスノノを広げ、トライアスロンのファンをつくること、トライアスロンの発展となると思います。

#### 作文27

トライアスロンを始めて約15年になります。最初の頃に比べると一般的になってきました。私も、クラブ主催の大会を運営していましたが、大会運営をする時、一番難しいのがバイクコース設定で、正式に警察の交通課に許可を求めると、なかなか許可してもらえませんでした。それで無許可で公道を使っていましたが、やはりもっとメジャーになって、すぐに使用許可が取れればいいと思います。それには競技者本人が、日頃から交通ルールを守り、トライアスロンの自転車は安全であると思ってもらえる事が必要だと思います。それと1日も早く、国体とかに参加でき、もっと一般の人々の理解を得られればと思います。

「スイム、ラン」は、2002年から始まる様なのですが？その時は私も審判員として参加させて頂きたいと思っています。

#### 作文28

##### 「トライアスロンの理想」

私は、トライアスロンを始めて、多くの人に出会い、様々な場所に行く事ができ、競技としてだけではなく、何か人と人との結びつき、心有るスポーツだと感じました。

競技として、順位、タイムを競う目的で行う事も、目標がありすばらしい事であると思います。しかし他の目的として、トライアスロンをもっと楽しんでもらいたい。トライアスロンを通し、仲間を作り、地元の方と交流を深める為の大会が多くあればいいのになと思います。又、女性としてはバイクの練習があまりできなかったり、恐か

ったり、移動が大変だったりするので、もっと気軽なアクアスロンがもっと普及すればと思っています。

もっと気軽に楽しくできるスポーツになれば、子供からお年寄りまで、生涯スポーツとして、親しんでもらえるのではないかと思います。生涯スポーツとして親しんでもらう事は、健康面でも、体に、心に良い影響になると思っています。笑顔で出来るスポーツ、トライアスロンになればいいのになと思っています。

#### 作文29

「トライアスロンの（日本における）今日的な問題について」

81年に、皆生温泉にて初めて大会が開催され、94年にJTU設立、98年に体育協会加盟、99年には社団法人化と、JOC加盟を果たし、今年のシドニーオリンピックでは、男女共複数の選手を派遣する事がほぼ決まり、短時間に急速な成長を遂げてきたことは非常に喜ばしい事である。しかしながら、全国的にトライアスロンの組織がしっかり根付いているかどうかは疑問である。

この一つの契機として、トライアスロンの国民体育大会、正式種目化が検討対象となる。国体が、47都道府県を順々に回っていく事から、これまで大会のなかった地域には、開催に向けての取組に、強力な後押しが出来る。JTU及び加盟団体と直接関係のなかった大会との協力関係が進むかもしれない。

国体開催が、その地域にもたらすのは、地元のトライアスリートの参加可能大会を一つ増やすだけには留まらない。審判や運営管理者、選手や指導者などの育成や組織化が図られる。

地元民や関係機関にとっては、トライアスロンに実際に接する事で、さわやかな感動を覚えるだろうし、かつてあったような異様な鉄人イメージは払拭されるだろう。そしてトライアスロンに対する理解をうる事が出来る。

#### 作文30

トライアスロンだけでなく、あらゆるスポーツ、物事にはルールがあり、ルールがないと成り立たないものだ。そこで、トライアスロンでは審判員というものが必要である。審判員というのは、主観だけでなく、レースを客観視できる事が大切だ。例えば、ある選手だけを応援したり、自分の考えで選手を裁いたりしてはいけないと思う。審判員は選手が不正を行っていないかなどばかりを注意するのではなく、選手のレースまでの努力、熱意を受け止め、できるだけ選手が完走できるよう、温かい目で見届け、注意が必要な所は注意するが、レースのスムーズな運営やレースの盛り上げ、質の向上などを目標とするような心得が必要だと思う。審判というのは冷静な判断が必要だし、様々な場に目を置かないといけないし、大変だとは思いますが、やりがいのありそうな役なので、もし審判員になる事があれば、頑張ろうと思う。

#### 作文31

私は過去、奈良県選手権大会に、会場が航空自衛隊、奈良基地に移った第3回大会より連続して、大会役員として関わってきました。第5回大会には選手としても参加させていただきました。その経験を通して思う事は、トライアスロンという競技の良さは、3つの競技を連続して楽しめるという面白さに加えて、選手と大会役員及び審判員、そしてボランティアの人達が一体となって大会を盛り上げ運営するというところにあるということです。

審判員として、選手が安全に競技を終え、かつ、力を出し切って満足感を得る事が出来る様に、力を注ぐ事に喜びを感じ、また時として自分が選手となり、多くの人達の力に助けられて競技する事に喜びを感じる。これがトライアスロン本来の理想であると思います。安全な競技運営ということも大切な問題であります。幸い奈良県選手権大会は、会場の広さの限界ということもあり、少人数の大会で大きな事故もなく、今日まで友好的に運営されてきましたが、規模の大きな大会になればなるほど、役員、審判員、ボランティア、選手の間に意志統一を計ることに多くのエネルギーが必要になってくると思います。競技や大会運営について、理解が充分になされていない事が、大きな事故につながると思っています。交通事情の事もあり、事故なく安全に大会を運営するには、どうしたらよいの

か、ということを考えていく事が、今後のトライアスロンの発展を考える時の一番大切な課題であると考えます。

### 作文32

「トライアスロンの今日的な問題の一つ」

74年サンディエゴで生まれたトライアスロン、今では一度は参加したい78年から開催されているハワイアイアンマン、国内では81年から皆生と、2000年の今日までトライアスロンは16才で、オリンピックに参加する事が出来るようになった。この流れの中で国内では、84年、85年にトライアスロン団体（連盟、協会）が発足して、激動の時期であった。これを社会的に認められる競技に育てた先人に感謝したい。短期間で成長した競技のゆえ、問題も残されている。選手のマナーの向上が歴史の浅さから図られていない。これは今でも「他人に出来ないことをやっている」との考えが残っているのかもしれない。

社会的に認められる紳士のスポーツにするには、トライアスリート選手になった時から、指導者であり、審判員であると私は考えている。

ローカル大会が増え、大会運営が充分でないまま(交通規制や場所の問題で)我慢して行っている大会では特に、大会役員、審判員、選手で考えていかなければならないと思う。安全に競技を行うには全員が審判員である。

### 作文33

審判員として一番必要なのは、失格を出すことではなく、選手が違反になりそうな時、サポートしてあげる事だと思います。選手が気持ちよく、思いきってレースが出来る環境を与えるのも大切な事だと思います。確かに、選手は規則を理解した上でレースに参加しなければいけないと思います。でもレース中は必死です。ふと忘れてしまうこともあると思います。それをサポートするのも審判として大切な事だと思います。

トライアスロンの理想としては、たくさんの人にトライアスロンという競技をわかってもらい、競技人口も増えたらいいなと思います。でもレースというのは、そんなに簡単に出来るものではありません。地域の方々の協力が必要となります。道路事情もあります。場所というのが問題になってくると思います。そのような問題もまだまだトライアスロンが広がってないからだと思います。たくさんの人達に理解してもらったら、もっともっと楽しくなると思います。オリンピックを機会に、トライアスロンがたくさんの人に感動を与え、親しみのあるスポーツになればいいなと思います。

### 作文34

「'97ロングディスタンスの佐渡大会、宮塚選手がバイクをトップで走っていた。彼をアップで撮ろうと、報道車が接近する。宮塚選手は間をあげるよう車に指示しながらバイクをこいでいた。」という記事を見た。彼は35mの車によるドラフティングペナルティを防ぐべく、気を遣っていたのだ。トップアスリートは、ルールを熟知している。その彼らを指導、注意、警告する立場の審判員は、よほどしっかりとルールを勉強し、実践にそくした技術を身に付けねばならないと思う。一方、初心者を含め、ルールをしっかりと覚えていない人に対して取り締まるのではなく、公正で安全をベースに、楽しく競技を進めてもらうよう思いやりの心を持って接しなければならない。20世紀に始まったトライアスロンは見せるスポーツである。観衆に、「とんでもないリールのスポーツ」のイメージを植え付けないよう、しっかりとしたルールの確立と、それを守る競技者、き然としたマーシャルの態度が「ステキなスポーツ」のイメージをトライアスロンに与えてくれるであろう。その為には、審判員は大会当日だけでなく、大会の運営にも関わり、選手や現場の意見をよく聞いて、その声を大会やルールに反映させる事が必要だ。ルールは不変ではない。公正で安全なトライアスロン競技を発展させるため、こういった現場の声を提案していく必要がある。これも審判員の使命だと思う。取り締まる審判ではなく、ルールを守りやすい環境設定、楽しく明るい

大会の雰囲気作り、判りやすく明確なルールの確立のもとで、大会主催者、選手、地元ボランティア、観衆が一体となった大会作りに審判員が一役買わねばならない。

個人的には、大会で目立つことなく、それでいて存在感があり、そこに居るだけで周囲に安心感を与える雰囲気の審判員になりたい。トライアスロンの発展のためには、そんな審判員が多く生まれることを願ってやまない。

### 作文35

トライアスロンは理想的なエアロピクスである。この競技を普及することにより、人々の健康度合いは格段に向上するであろう。今日高齢化がさげばれる中で、いかに健康体を保かが大きな社会的課題である。そういう意味においてこの競技は、人々を健康で長生きしていただく為の一つの手段として有効である。

より広く普及させる為には、スムーズで安全な大会運営が必要となるであろうし、大会以外の練習等においても、社会の理解を得ることは大切である。一般のプールにおいて、開放されたコースをクラブの練習会まがいの独占使用や、一般公道において集団による自転車の練習会、ランの練習会等、一般社会を敵に回すようなトライアスリート等の行動等は慎むべき問題である。

また、近年全国で開かれる大会の減少の傾向が見られる。このことは、社会にこの競技が受け入れられていない所が存在すると考えることができる。例えば大会での道路使用の問題は、100%交通の安全性が確保できていれば問題は無いと思われるし、村おこし的に行われている大会であれば、地元への還元をもっとトライアスリート達が考えるべきであろうし、大会中に起きる多くの人身事故は、審判員等大会運営者、競技者の資質が向上すれば防げる事故も少なくないはずである。

楽しく安全な大会作りは、結果的に健康で長生きの社会作りにつながるものであると思う。

「理想の大会作りは、理想の社会作り」

### 作文36

トライアスロン競技は、1974年カリフォルニア洲サンディエゴで始まった。日本では皆生大会で1981年に開始された。それ以後、年と共に盛んになり、今年シドニーオリンピックの公式競技までになった。

しかし、まだ国体競技の仲間入りを果たしていないという現状は、我々トライアスロン競技を生涯スポーツとして位置付け、その普及に努めている仲間として、もっと頑張らねばという気持ちになる。

この競技は、全身均等運動であり、老若男女すべての人が楽しめる素地があるスポーツと思う。そのために、日頃の練習の手助けをする仲間あるいは組織を充実させることも必要であり、その上にトライアスロンレースが展開されるものである。いわば各自の検舞台があり、そこで競技者と審判員、そして運営に携わるボランティアスタッフが存在するのである。ここで競技の楽しみを追求すれば、それは全員の協力と相互のお互いへの感謝の気持ちを表すことによって達成されるものと思う。各立場の人達は、権利のみを主張するのではなく、義務もあり、それを楽しく行う事が大会運営をスムーズに行うこととなり、「楽しくて又来年も来たい。」「来年もお手伝いしたい。」「来年も選手の公平と安全とに励みたい。」という気持ちとなる。特に審判員は権力者の立場で、選手を指導、監督しないよう、あくまで楽しく、安全に、公平に競技が出来るよう配慮すべきである。

### 作文37

「審判員のあるべき姿・心得」

審判員は、すべての競技者にトライアスロンを公正で安全に競技できるよう見守る最前線の役目を課せられている。公正で安全に競技できるようルールが定められているが、本来失格者を出すのが目的でなく、ルール違反を未然に防ぐことが重要である。

競技中、選手は真剣である。それに答えるべく審判員も真剣と誠実さが求められ、その姿は選手にも通ずること

と思われる。審判員も競技を進行さす一員、スタッフであり、世話役でもある。

私自身の考えとしてであるが、人は生まれて死するまでに何人の人々と会えることができるか、きっと会える人数は無限ではない。競技中、声もかけない人もあるかも知れないが、その時出会えた事を素直に喜びたい。また常に、「ありがとう」という感謝の気持ちをもちたい。トライアスロンに関係する人々が、それぞれの立場で感謝と出会いを大切にすれば、今後トライアスロンが益々発展していきだろう。

本日、受験できたことと、同じ時を共有し、皆様と出会えたことに感謝致します。ありがとうございました。

#### 作文38

私がトライアスロンと初めて出会ったのは、約10年前です。当時の協会関係者の方からボランティアの依頼があり、手伝ったことです。走る以外知らなかった私は、非常に驚きました。それ以来、大会スタッフ、大会役員として競技に関わっています。

トライアスロン競技者ではない私ですが、常に心掛けていることは、各競技者がトラブルなく、無事競技を終え、また来年も参加したいと思って帰ってもらえることです。

また私達、奈良県協会には、自由に競技を行える場所が無く、毎年自衛隊の場所を借用しているが、競技前には大会役員で、コース上の掃除や危険な所へのマット取り付けなどを行い、トラブルを未然に防ぐ努力を行っている。

技術的な面の知識のない私ですが、競技をする人の気持ちは分かっているつもりです。今回の審判員試験を受けたことで、新しい知識を身につけることが出来たので、トライアスリートの気持ちが理解できる人間として、今後も大会運営に携わっていきたい。

#### 作文39

最近、開催中止となったトライアスロン大会の話をいくつも耳にします。この原因は近年の不況の影響だとも言われていますが、不況だけなのでしょう。昔から、大会のカーボパーティーでのマナーの悪さ、スイムのバトルの際での乱暴な行為、バイクのエイドステーションでのボランティアに対する暴言等、トライアスリートのマナーの悪さが指摘され続けてきました。「もう少し我慢すれば改善されるだろう」と期待していた地元の人達がついに愛想を尽かし始めたのではないのでしょうか。

安全面での配慮をした上で、ドラフティング以外のルールは緩ければ緩い程いいと思います。「ボランティアに暴言をはかない」というルールブックの記載は悲しいです。我々トライアスリートは今までも増して注意しないと、「ただの好き者集団」となってしまうでしょう。

トライアスロンとは、「能力も才能もない人間(私)でも、自らの夢を信じてコツコツ努力すれば、いつか夢はかなう事もある」そんな素晴らしいスポーツだと思います。このスポーツが広く普及するにはどうすればよいのか？トライアスロンがオリンピック種目になり、益々競技志向が強くなってきていますが、我々はもう一度、創世記の我々祖先のスピリッツを思い出し、自らを律する必要があります。そしてそれはルールブックにいちいち記載する事ではなく、我々が後輩達に態度で示し、伝えていくべきものだと思います。

#### 作文40

「'99 第11回奈良選手権大会に参加して」

海のない奈良県での大会は制約もあるが、開催場所である自衛隊をはじめ関係者の努力で、昨年11回目を迎えた。コンパクトな大会ではあるが、トライアスロン共通のものがあると思い、良かった点、また反省すべき点をまとめる。

今回から大会役員は正規のユニホームを着用。斉藤氏(2種上級)を審判長、綿守氏(3種)を審判員に配置し

た事により、レースが引き締まった。医事関係も医師1名、看護婦2名が常駐し、救急用には高ノ原中央病院を準備した。エイドステーションでの水分の補給等はボランティアが担当し、声援も兼ねて構内の周回コースで盛り上がった。

<種目別について>

[SWIM] 飛び込み用付のプールなので、深い所にレスキュー隊を配置し、選手に安心感を与えた。一度プールから上るので観客が声援しやすかったが、25mの往復なので選手同士の衝突がこわかった。

[BIKE] 周回コースで選手各自のメーターが頼りないので、トラブル時に困るなぁと思いながら走ったが、ボランティアの声援も間近であり完走できた。ただし、追い抜き禁止ゾーンでの後ろからの「どけ!」の一言は許してはいけないマナーだ。

[RUN] 日常トレーニングをしているとはいえ、体力の消耗は激しい。水分の補給をしながらボランティアの声援に支えられてフィニッシュ。地元の協力、ボランティア、大会役員、審判員、そして選手が一つとなって「又、来年も!」という大会でした。

#### 作文41

1994年、アメリカのサンディエゴ市で初めて行われたトライアスロン競技も、ついに本年9月には、シドニーオリンピック公式競技の運びとなりました。年毎に競技者人口も増え、競技内容のみならず、選手層も一般からエリート、学生、ジュニアと多様化しつつあります。又、今後は高齢者も増えていくことでしょう。これらの方々をサポートしていく立場の私達としては、柔軟な頭を持ち、ルールの見直し等にも積極的に取り組み、変遷していくであろう。時流に対応できる前向きな姿勢が大切だと考えます。

又、エリートのレベルアップは大変喜ばしい事ですが、一般との格差の広がりはやむおえないことでしょう。しかし、そこに偏見があってはならないと感じています。私は20年近く日水連の役員をしてみましたが、一部の役員の中には、水泳競技と言えるのはエリートのみで、その他は認めないという明かな差別意見があります。トライアスロンもそのような方向に行かないよう望みます。水泳とトライアスロンでは歴史的背景も違いますから、穿ち過ぎかもしれませんが、区別はあっても差別はいけないと思うのです。トライアスロンというスケールの大きなスポーツに携わる者として、選手すべてに思いやりをこめ、1人1人の試合にかける気持ちを理解し、安全と公正というルールのもとに、大きな受け入れの心を持った審判員でありたいと思います。

#### 作文42

審判員は、ルールに反した人を罰するだけが仕事ではない。レースを公平で安全な大会にさせるために、未然に事故を防ぐのに、注意・警告を事前に競技者に与える。ルール違反が明かに起きそうな場面。例えば、バイクの集団走行。これは日本選手権のようなエリート部門を除いた一般大会では、ドラフティングゾーンを設定する。競技者はドラフティング走行した方が、有利にレースを進められるだろうが、大会参加者のレベルも様々だし、安全を考えれば当然の規則であろう。

しかし、なかなかその規則を順守させるのも大変な仕事である。大会の規模に対する審判員の少なさ、道路事情による集団走行ならざるを得ないものなど。それをカバーするために審判員の技量アップも当然であろうし、競技者にもそのルールを理解させることも、審判員の仕事だと思う。

これからオリンピック種目になり、テレビなどの露出も多くなると、競技人口増大による底辺拡大、レベルアップもあろうが、審判員の役目もレベル差のある大会で益々重要なものとなっていくだろう。

#### 作文43

トライアスロンは競技の歴史が浅く、野外で行われる場合がほとんどなので、その審判員は時には様々な判断を

必要とされる。しかし、その大会を、トライアスロンの競技そのものを良いものにしていこうという心構えを持ち、前向きかつ迅速に対応していくことで、トライアスロンが発展していくのだと思います。

98のアジアカップ村上大会での事です。最初トランジションエリアが、バイクコースから急な坂を下り降りた所にあり、エリートの部は急な坂を下ってすぐに降車ゾーンがあり、大変危険であった。しかし、エリート選手対象の競技説明会で、選手から「危険なので改善して欲しい。」と意見が出ると、その場で審判員、選手共に話し合い、降車ゾーンを少し坂から離れた所に変更された。また、前日にスイムコースで泳ぎ、ブイを固定するロープが横に出すぎ、ストロークが引っかかると意見をすれば、その日の内に改善された。

こういう迅速で正しい判断が、選手の安全等を確保し、審判員、ひいては大会のイメージを良くしていくものであると思います。審判員は選手の為に行動しているのに、選手からは自分達を取り締まる者として見られ、良い様に見られる事はあまりない傾向にある。しかし、審判員のがんばりはどこかで選手に伝わるので、僕も審判員として行動する時は、選手の安全、安心、競技の公正、大会会場にあたるイメージ等に気を配り、良い判断ができるようにしたい。

#### 作文44

毎年、200名前後の参加者があるトライアスロンのローカル大会で、年間を通してその会場で数回、大会が開催されています。私自身も年に1~2回出場し、大会開催回数も10回近く数えるものもあるのですが、私も含め参加者のほとんどが、トランジションエリアのコース取りに疑問や不満を持ち、大会役員などに言っているのですが、今だに改善されていません。

それはバイクラック、スペース的には問題はないのですが、スイムアップ後、各自のバイクラックに向かうのに、バイクスタート方向に直接向かう者と、それとは逆の方向に1度向かい、再度スイムアップ地点を通過し、バイクをスタートする者との正面衝突や、過度の進路妨害距離による不公平(タイム差にして約40~50秒)などが生じています。以前(私が競技を始めた7年前)は、コース取りにより、いろいろな大会でこのような問題がありましたが、現在はほとんどが進行方向と逆からトランジションエリアに入る事で解消されています。実際問題、この会場にはトランジションエリア横でスイムアップ側に、十分な走路が確保できるので、最終的には大会実行委員会がこの問題に関してどのような対応を取るかではないでしょうか。

ここ数年、競技人口が著しく増加し、それに伴い大会の運営レベルも上がってきています。実績のある大会は、毎年着実に運営レベルを上げる為に、他のいろいろな大会の良い所を取り入れる姿勢、努力を惜しまず、いろいろな問題を解消しているようです。競技レベルが上がれば上がるほど、秒単位の争いになってきますので、先程述べた大会などは、選手の側に立って大会運営を行って欲しいものです。

又、日本選手権、それに準ずる大会及びその他のローカル大会などを問わず、全ての大会の運営レベルが上がれば上がる程、競技人口の増加、競技自体のレベルの向上、しいてはメジャースポーツとしての位置付けなども高くなるのではないのでしょうか。そして、ルールを載くだけではなく、未然にトラブルを防ぐ為にも、マーシャルが個々の大会運営に携わっていく必要があると思います。